

# 清和文楽館25周年記念公演



6月24日、文楽の伝承と地域の活性化を目的として平成4年に建設された「清和文楽館」の開館25周年記念公演が開催されました。

清和文楽は1850年頃に清和地区に訪れた、淡路の人形芝居の一座から浄瑠璃好きな農民が人形を買い求め、技術を習ったのが始まりです。農家の人々で構成された清和文楽は、地域のお宮の境内で奉納芝居を上演したり、各地の行事に招かれたりするなどして伝承されてきました。現在は太夫・三味線が3名(兼務)、人形遣いが10名で上演しています。

記念公演では「絵本太功記 尼ヶ崎の段」が上演されました。上演前にあらすじと登場する人物(人形)の紹介が行われ、初心者でも理解しやすい工夫がなされており、上演が始まると、ベテランのファンから掛け声がかかるなど、舞台と観客が一体となった盛り上がりを見せていました。

定期公演は毎週日曜日午後1時30分からです。演目、詳細につきましては清和文楽館までお問い合わせ下さい。



太夫の岡本さん(左)と渡辺さん(右)



あらすじと登場人物の紹介をする人形遣いの山下さん

公演等に関する問い合わせ先 清和文楽館 ☎ 82-3001 (休館日: 毎週火曜日)  
 清和文楽館ホームページ <http://seiwabunraku.hinokuni-net.jp/>  
 清和文楽館フェイスブック <https://www.facebook.com/seiwabunraku>

町長室から

梅田 穰

災害は忘れた頃にやってくる。昔から言われている言葉です。しかし昨今の地震・台風・水害の報道によると、日本のみならず地球規模での大きな災害が起きています。今年も7月の九州北部豪雨では40名以上の死者・行方不明者、多くの家屋の流出、道路・農地・山林の崩壊と悲惨な被害の状況であります。被害に遭われた方々に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

本町におきましても、発災後速やかに町職員3名を被災地(福岡県朝倉市)に派遣し、支援活動に参加してもらいました。現地では豪雨の爪痕激しく衝撃を受けたようです。平成28年熊本地震での経験を多少なりとも役立てることができたようです。今回の貴重な経験を、今後の本町防災対策に活かして欲しいと思います。

なお、今回被災自治体からの支援要請を待たずに職員を派遣しましたが、引き続き情報収集に努め、今後も積極的に被災地の支援を行っていきつくりです。

今回の災害に関しては、山林の手入れや杉・松の植林方法が議論されていますが、戦後一貫して進めてきた林業行政について本町でも今一度考え直す機会と捉え、その重要性を痛感しているところです。

災害関連復旧予算を含む33億9,400万円を可決していただき、当初予算とあわせて146億円規模となり、前年度予算の繰越分をあわせると、225億円超となる超大型の予算規模であります。職員と一体となって適正な予算の執行に努めて参ります。

災害復旧工事については、約2,300件の公共災害・農業災害の査定が終わり、順次入札を行っているところですが、不調・不落が発生しています。工期や事業着手の遅延が発生する現場も出てくると思いますが、建設業界の方々とも連携を強化し、早期の復旧に努めますので、ご理解をいただきます。

町長就任後速やかに、本町の重要課題である「農業振興」「移住・定住促進」「総合体育館建設」の3つのプロジェクトチームを立ち上げました。現在、月2、3回会合を行っており、同チームの報告を受け、できるだけ早期に結論を出し、実行できる体制を整えて参ります。

なお、各プロジェクトの検討については、適宜町民の皆様の意見を聞きながら進めて参ります。

今後もスピード感を持って町政運営に取り組んで参りますので、皆様の御理解と御協力をお願いします。

## 「熱い戦いが繰り広げられた！郡民体育祭」

7月2・8・9・16日の4日間にわたり、第67回上益城郡民体育祭が開催されました。昨年は熊本地震の影響で開催を見送ったため、2年ぶりの開催となった本大会は、山都町を主会場とし、上益城郡内にて、陸上、水泳、野球、ソフトボール、サッカー、ソフトテニス、ゲートボール、グラウンドゴルフの屋外競技8種目と、卓球、柔道、剣道、弓道、空手道、銃剣道、相撲、バレーボール、バスケットボール、バドミントンの屋内競技10種目の計18種目が行われ、各町の誇りをかけて競い合いました。

なお山都町は、卓球、バレーボール、柔道、剣道競技において見事優勝し、総合成績は3位という結果でした。

